



膵癌を早期発見するために

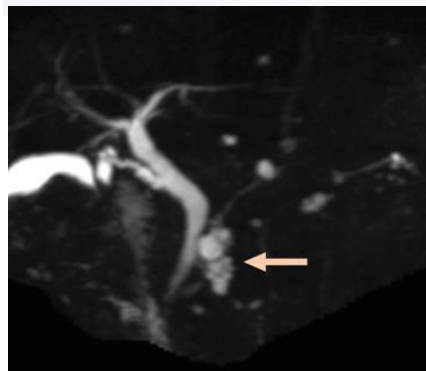
膵嚢胞・IPMNについて



膵癌は、5年生存率10%未満と予後が不良な疾患です。膵癌の多くが、初回診断時に手術切除が困難な状態で発見されることが原因の一つですから、早期発見が重要です。本邦における膵癌の死亡率は増加傾向にあり、2017年の癌臓器別の統計では第4位となっています。

サーベイランスの必要性

- ① 膵癌の危険因子に、遺伝性（家族性）、糖尿病、肥満、慢性膵炎、膵嚢胞（膵管内乳頭粘液性腫瘍）、喫煙、飲酒などが挙げられます。特に、膵嚢胞の大部分を占める膵管内乳頭粘液性腫瘍（intraductal papillary mucinous neoplasm；略してIPMNと言います）は膵癌の発癌母地となりえるため、膵癌を早期に診断するためには、危険因子を有する患者さんにサーベイランス（厳重な精査や観察）を行う必要があります。
- ② IPMNの患者さんは、一般人口と比較して膵癌のリスクは約22-28倍と高く、その経過観察中の膵癌発生率は、欧米の報告では年率0.7%とされており、サーベイランスはとても重要です。
- ③ 実際の臨床現場では、ガイドラインに準じて診療が行われています。IPMN国際ガイドライン（2017年版）では、膵癌に進展しやすい危険因子（嚢胞の大きさや膵管の太さなど）に応じて手術適応を決めています。手術に至らなかった場合でも、定期的なサーベイランスが推奨されています。



（図はMRI検査で、←部分がIPMNです）



当院では、膵嚢胞のサーベイランスを行い、個々の患者さんに応じた最適な検査・治療を提供しております。いつでもご相談ください。

消化器内科 城 尚志

市立貝塚病院
TEL：072-422-5865

